

「伸楽」とは…

押しつけられたり、しなければならぬからいやいや学んだりするのではなく、一人ひとりが学ぶ意味を見つけ出し、喜びの中で輝き成長する教育、それを目指す考え方です。伸楽ひふみ学園はこの伸楽の考え方に基づいた、小中学生のひふみ塾・中等部・高校（通信制課程）の学習支援センター・大学（通信制課程）のサテライトカレッジ・就労支援のためのNPO団体を併せ持つ総合学園です。

1学期が終了。それぞれの成長…



7月12日に1学期の終業式が行われ、生徒たちにとって楽しみな夏休みがスタートしました。今年入学してきた生徒もそれぞれに学校での居場所や過ごし方を見つけ、2年生はさらに成長し、他者との関わりや自主的な学習など今まで苦手だったことも出来るようになってきました。また、3年生はそれぞれアルバイトや既卒生との交流を通じて今まで以上に頼もしくなっています。

長い休みが終わると、1年生にとっては初めてのスクーリング、2年生にとってはさらなる自分磨き、3年生にとっては卒業後の進路探しとまた大きなステージが待っています。でも大丈夫。これまでの先輩や卒業生がそうであったように、みんなきっと乗り越えていけるでしょう。

交流会…兼六園へおでかけ

例年は入学後すぐの週末にお花見を兼ねて兼六園に出掛けていましたが、今年は花の満開の時期が入学式の前に終わってしまい、6月にずれ込んだ兼六園散策の会。

普段の教室を離れていつもと違う空間でみんなと過ごす経験は、例年新たな交友関係が広がったり新しい興味の対象が見つかったりする貴重な経験となっています。

10時過ぎに教室を出発してJRの電車に乗り、金沢からバスに乗って兼六園に向かう経験も、とても貴重な体験となっています。

参加してくれたのは高校1年生から大学1年生まで12名と保護者1名、そしてスタッフ6名です。

6月の兼六園は日差しも強く、木々も青々として春先とはまた違った風情がありました。水辺には、鮮やかな蒼をたたえた菖蒲が咲き、とてもきれいでした。

園内をしばらく散策した後、中央にあるお団子屋さんに立ち寄ってみんなで休憩&水分補給。みんなそれぞれジュースやかき氷をほお張ってリフレッシュ！



生徒の中には、自分の興味の対象に対して没頭してしまっただけで他者との関わりが苦手だった子も多いですが、そんな生徒の中の一人が今回、自分が食べていたかき氷を隣に座っていた女性スタッフにおすそ分けする場面がありました。暑いお日様の下で食べたかき氷が美味しくて、それを知ってもらえたのかもしれない。しかし、それは確実に成長を感じる瞬間でした。

水分補給をした後、園内の景色を楽しみつつもう少し進んだ別のお土産屋さんへ移動。そこはお団子を1本から販売してくれるというスタッフのアドバイスもあり、早速買って食べている生徒もいました。

近くには有名なことし灯籠もあり、みんなで池をバックに集合写真の撮影。素敵な思い出の記録が残りましたよ～。

この後園外のお土産屋さん沿いを歩き、21世紀美術館に移動しました。

持参したお昼ご飯を食べたり展示されている作品を眺めたり…それぞれのんびりとした時間を共有。

暑い日でしたが、とても楽しい時間でした。



成長を実感する日々

最近、とくに3年生を見るにつけ、本当に成長したな～と感じます。

ある一人の3年生の生徒も、特に不真面目だったというわけではありませんが1年生の頃は集中して勉強に取り組んでいられる時間も限られていましたし、「まあいいや」が口癖のようによくその子の口から聞いていたような気がします。

しかし今、「今まできちんと勉強出来てないからやらなきゃ」と目を見張る頑張りっぷりを見せてくれます。

その3年生が、6月下旬のある金曜日に遊びに来てくれた卒業生から彼が通っている就労支援事業所のヴィスト西金沢センターの見学に誘われたので、ある日の午後一緒に行ってきました。

ヴィストでは授業の体験参加をさせていただきましたが、その時にも積極的に授業に加わり、授業後の個別面談(ヴィストの説明会)ではこちら側の職員に「大人のしゃべり方を知らないから、仕事をする時に必要な会話を身につけたい。」「こういう場面(面接)で椅子に座った時、手ってどこに置いたらいいんですかね?」と訊いてきて、大人としての対応力を身につけようという積極性が随所で見られました。

こういう変化を目の当たりにすると、本当にまっすぐ素直に大人になって行ってくれているんだな～と嬉しく思います。

ヴィスト見学に3年生を誘ってくれた卒業生も、ヴィストで職員の方と会話のやり取りをしていたり授業で意見を出し合ったり立派に発表をしたりと、教室で見ていた時よりも大人びた感じに見えました。

やってみよう、という気持ち。

6月のある日の午後、2年生の男の子たちのリクエストで体育館へ行きました。

1年生の男の子の中の一人が、入学以来「友達が欲しい、作りたい」と言っていたことを思い出し、出がけに「あの男の子にも声掛けした?」と尋ねたところ「うん、聞いてみたけど今日はいって言った」と、答えた2年生。以前体育館に行く時にその1年生を誘ってもらったようにお願いしていたのですが、一過性にならずにちゃんと声掛けしてくれていたことが嬉しく思いました。

体育館では毎回バドミントンを楽しんでいます。

受付・準備・後片付けなどは全部自分たちでやっています。

ちなみにこの日の数日前に彼らが取り組んだ体育のレポートの内容が、ちょうどバドミントンのルールについてでした。それまではただネット越しにシャトルを打ち返して勝った負けたを競っていましたが、今回は自発的に「今日はルールにあわせて対戦してみよう!」と教科書に書かれてあった公式ルールを思い出しながらポイント制の試合がスタートしました。「このラインを超えて落ちたらインかアウトか」「今はミスになるかどうか」そんなことを3人で話しながら、2セット×2ゲームのバドミントンを楽しんだ様子です。

学んだことをそのまま取り入れてみようというこの気持ち、嬉しいですね。



おしゃれ度アップ! 体験授業

今年度は男の子も女の子も、みんなおしゃれに興味があるようです。そこで今年度はおしゃれに関する色々な体験授業を行っています。

5月にはネイルアートの体験講座を実施し、4名の女子生徒が参加してくれました。短い時間の中でしたが、甘皮の処理や爪磨きなど、当然かも知れませんが基本から丁寧に教えてもらっていました。



6月にはコスメセラピーが行われ、女子生徒の何人かが眉のお手入れについてレクチャーを受け、興味のある生徒は本格的なメイク術も教えてもらって大人びた雰囲気が一変しました。興味深かったのは、男子生徒の参加率も意外と高かったこと。何人かの男子生徒が眉の整え方を教わり、きりっとした顔立ちに満足した様子でした。

そして7月に行なわれたのはヨガ教室。初年度にヨガ教室をして下さっていた進藤先生が久しぶりに講師をしてくださいました。しかも、この時には、大学生の男の子が積極的に参加して、楽しんでくれたようです。これからもいろんな興味を引き出せるような授業を取り入れていきます。



子育てのワンポイントアドバイス その5

■居場所づくり

この4月に新入生を迎えるにあたって教室の割り振りを提案をしました。

昨年は、メインとなる教室で入学式をして、1年生をその教室に迎えたのですが、自然と、どの子も自分の居場所を作っていきます。けれども新しい環境に慣れるのにとても時間のかかる子たちですので、学年ごとに教室を移すのではなく、自然とできあがっていく空間の中に自分の居場所を見つけてもらうことにしました。それは、自由保育の原理だなとわが子たちのことを思い出しました。

うちの娘ふたりは、保育園と幼稚園と違うところに通いましたが、長女の体験で、次女の幼稚園も自由保育の園を選びました。長女が縦割り保育の中で、よい関係を体験しているのを見ていたので、人見知りの激しい子かつ友だちを作るのがヘタですので、自分より年長の子にかわいがってもらったのがよかったのです。また次女は、人見知りはない子だと思っていたのですが、母がいつも共にいたからであって、幼稚園に行き始めたとき、人見知りが始まりました。その次女のお気に入り場所は、園長先生の部屋でした。ある子は、鳥小屋の前だったりするのだと話にも聞きました。

学校という集団生活の中では自由が許されない「居場所」ですが、繊細な子たちには、そうした自分にとって居心地のよいスペースを確保できるということが、重要なのです。そのようにして、居場所作りができるのと不登校だった子どもたちが、自然と通えるようになります。

子育てアドバイザー 笠松 ゆり

私の想い ～今学期終えての想い～ 佐藤公一

新学期が始まってはや3ヶ月が過ぎ、7月の中旬から夏休みに入りました。

新入生9人は、皆それぞれのペースで学習に取り組んでいます。9人は入学して始めに将来の目標(夢)を、欲求(～したい)から見る学園独自の才能早わかりシートと「13歳のハローワーク」をもとに作り、なぜ高校で勉強するのかをハッキリさせてから、各自オリジナルの時間割表を教師のサポートのもとに作りました。それぞれのペースで、今までの中学生活とは全く違う、この学園生活に慣れてきたようです。2年生は、もう堂に入っており、学習にも慣れ、友達関係もスムーズにしています。

伸楽ひふみ学園の進路指導の基本は、就職でも専門学校進学でも大学進学でも、「実社会でやっていける武器を身につけさせる」なのです。例えば就職の場合は、お魚屋さんとかお肉屋さんとか焼き鳥屋さんとか、働きながら技術が身につく職種を進めています。専門学校も同じ方針で、実社会で本当に役に立つ種類の学校を進めています。例えば、コンピューター、工業技術、医療、食調理その他理容など、技術系ですね。もちろんこれらは、生徒それぞれの特性に合わせて指導しています。

大学進学も同じ方針での指導です。なるべく社会でやっていける武器(技術)を身につけさせていく指導です。

うちの学校は、卒業後もケアするシステムを持っていますので、中途半端な進路指導はしません。むしろ、個の進路の部分が一番大切にしています。一人ひとりの生徒を何としてでも輝かせたいという強い志を持っての進路指導なのです。ですので、この学校を卒業して就職しても専門学校へ行っても大学へ行っても、その職場・学校などの間に入りサポートをしていくので、卒業してはいさようなら、という感じはなく、別れの感傷とかはあまりないのです。最近、今年卒業し専門学校へ行った生徒が不登校になってしまったと聞き、その専門学校と生徒の間に入って生徒のカウンセリングをし、専門学校側にはその生徒がやりやすくなるような改善策を提案して実行してもらいました。

その後、数週間後にその生徒がうちの学校に顔を出し、笑顔で「毎日元気に通ってます」との声を聞き、目頭が熱くなりました。こんな時にこんな学校を作って良かったなあ、教師になって良かったなあ、と感じます。

親の役割 教師の役割

親の役割と教師の役割は違います。

よくこれは勘違いされやすいのです。また難しいのです。

伸楽ひふみ学園では小中学生向けの塾も運営していますが、以前、何名か教師のお子さんも来ていました。その教師の親御さん達、口を揃えて家ではうまくいかないとのことでした。

なぜか。それは、親は自分の子供に対して感情が入りやすく、褒めるべきところで褒めず、もっと出来るだろう、何で出来ないの、となりやすいのです。また子ども側にも親に甘えたい、認められたいの思いの葛藤があるからうまくいきにくいのです。

他人である教師は、階段を作って教えることが役割ですが、しかし、親がそのまま教師の真似をするとなかなかうまくいきません。親には、他人である教師にはできない素晴らしい役割があります。

それは、質の良い応援団としての役割なのです。

「質の良い」とは、演出力です。よく「親が子供を心配するのは、愛情よ」と言いますが、驚くことに、心配はタバコと同じく、よく見ると良いところがひとつもありません。心配な事があつたら対策を立てて、前向きな気持ちでそれを実行した方が、よほど効果的なのです。心配するなら、それを信頼に変えてみせる演出をしたらよいと思います。

たとえ心が心配であっても、笑顔(微笑み)と暖かい言葉で、例えば「お前はお父さんお母さんの子供なんだから、愛しているよ信頼しているよ」とか言ってあげる。最初は本心でなくても良いから言ってあげると良いと思います。笑顔と言葉のパワーは強いので、後から本当に心(考え方)もついてきます。

その他、学ぶ喜びも演出してあげると良いですね。

例えば、みんなが集まるリビングルームに地球儀を置いて、テレビでクイズ番組が何かで外国が出てきたら、地球儀でその国を探すゲームをするなどですね。または、テレビやパソコンやゲームは子供部

屋に置かないなどで、育ちやすい環境も演出してあげること出来ますよ。これらの物は、家族みんなのいるリビングルームにおいて楽しむのですね。楽しむと言っても、ただ野放しにして楽しませて(教育的な)意味がないので、パソコンは何時間とか、ゲームは何時間など、そこも演出して子供も交えて家族ルールを作ったらよいと思います。

伸楽ひふみ学園でも生徒を交えて、生徒に選択させる演出をして、過去、校則を作りました。そうすると大人だけで作り決めた校則ではなく、自分たちが最終的には選択した校則なのでよく守るのです。

守らなかった時のペナルティも子供と話し合っ、最終的には子供に選択させる演出をしたらよいと思います。自ら選択すると自然に、そこに責任が生じるので大人力も養われてきます。

ルール作りの例としては、例えばパソコンを時間オーバーしたら、次の日はパソコンなし、といった具合です。ただその一度決めたルールは、子供が泣こうがわめこうが実行するのも演出の1つです。しかし、この時の注意点は、気持ちは理解してあげることが大切だということです。

うちにも息子がいますが、私も家では一切教師の真似事はせず、ただただ良質な応援団に徹しています。うちの息子が高校生になった時、私との約束を破り携帯でアダルトサイトを見て莫大なお金を請求されたことがあります。しかしその時私は、男としてアダルトサイトを見たことに対する気持ちは尊重して責めなかったのですが、私との約束を破ったことに対しては叱り、携帯を取り上げました。

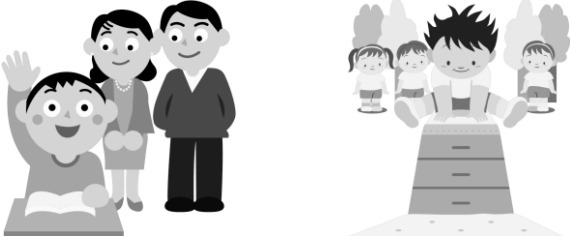
バイトをして自分で携帯を買って自分の責任で電話代も払ってアダルトサイトを見る分には、文句はないと付け加えてですね。

感情は認め行為には厳しく接すると、子供の心にしこりを残しません。納得します。以前、息子に、お父さんはお前を自立した大人に育てることが一番の目的だから、お前に嫌われようが好かれようが二の次なんだよ、と話したことがあります。

最後は私事になってしまいましたが、教師の役割、親の役割について、少しでも参考になれば幸いです。

先生だより ～樋口和枝先生～

こんにちは 樋口です。
ひふみ学園のスタッフになって、8ヶ月になります。
最初はとてもドキドキでしたが、生徒さん達と接するたびに、その不安は吹き飛んで行きました。
この学園でまず感じたと言うか、びっくりしたのは生徒みんなが得意分野を持っている！ことです。
イラスト、ゲーム、自動車関係、数学的思考、etc...それは、生徒の数だけあります。
自分の好きなことを見つけるのは、なかなか難しいことなのに、それをここの生徒さんは、みんなが持っているんです。
とても素敵なことだと思います。
そんなみんなの、得意なことや好きなことに磨きがかかるように、私もサポートさせて頂きたいと思っています。と言いながら、私の方がみんなから頑張るパワーをたくさんもらっているんですけどね。
これからも、生徒さん達と一緒に、笑顔いっぱい進んで行きたいです。



なんな先生の Mana カードリーディング

☆ 8月 「アオ」 光・意識

今まで気づかなかったことが明らかになっていきます。たとえば、ずっと悩んでいたことへの答えが出たり、探していたことが見つかったり。自分の意識に集中して下さい。自分が行くべき道が見えてきます。

☆ 9月 「アヴァ」 供物/生贄

あなたが何かをするとき、それは見返りを求めて？ それとも、ただそれをしたから？ 見返りを求めて行動をおこすより、ただシンプルに自分がしたいと思うことをする大切さを教えています。それが、あなたがあなたらしく輝く道に繋がります。

☆ 10月 「フル」 イリュージョン

あなたが飛び立つときがきました。新たな世界に向かって飛び立って下さい。新しい世界は必ずあなたの目の前にあります。あなた自身の力で、自分を囲っていた境界線を一步踏み出しましょう。



終業式の日午後、山野金沢市長が教室の視察に来てくださいました。



教室での取り組みを、感心しながら 30 分ほど見て行かれました。

ひ・と・こ・ま 教室風景



野球盤を中心に 1～3 年生が集う。

親の会カフェミーティングが月 2 回になります

9月から、親の会カフェミーティングを月2回行います。前半の土曜日は伸楽ひふみ学園に通うお子さんをお持ちの保護者の方とサポートする仲間が、後半の土曜日は伸楽ひふみ学園に興味のある方やその他の支援団体の方が話し合えるスペースとして開催することになりました。

今後の予定は 8/24、9/7・21、10/5・26 の 10時から 12 時までの予定です。

体験入学会 実施予定日

西金沢学習支援センターでは、定期的に体験入学を実施しております。

今後も、下記の日程で実施予定です。

平成 25 年 8 月 24 日 (土) 13:30~15:00

平成 25 年 9 月 21 日 (土) 13:30~15:00

平成 25 年 10 月 26 日 (土) 13:30~15:00

体験入学への参加は、事前の申し込みが必要です。

参加費は無料です。

実施場所につきましてはすべて伸楽ひふみ学園で行います。



今日の作品 ～赤いせかい～